

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 1 部門第 2 区分
 【発行日】平成 20 年 1 月 10 日 (2008.1.10)

【公表番号】特表 2004-537380 (P2004-537380A)
 【公表日】平成 16 年 12 月 16 日 (2004.12.16)
 【年通号数】公開・登録公報 2004-049
 【出願番号】特願 2003-518645 (P2003-518645)
 【国際特許分類】

A 6 1 B 17/32 (2006.01)

【F I】
 A 6 1 B 17/32

【誤訳訂正書】
 【提出日】平成 19 年 11 月 16 日 (2007.11.16)
 【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲
 【訂正対象項目名】全文
 【訂正方法】変更
 【訂正の内容】
 【特許請求の範囲】
 【請求項 1】

外科手術用器具またはシステムの高圧流体接続部であって、
 流体源からの高圧流体を収容しかつ内面を有するチャンバと、
 流体を前記外科手術用器具またはシステムに誘導するように前記チャンバに連通しかつ
 外面と中心軸とを有する管と、
 前記チャンバの内面と前記管の外面との間にシールを与えるように前記管を包囲しかつ
 前記管を前記チャンバに連結するガスケットとからなり、
 前記ガスケットが、前記管を受ける中央通路と、該中央通路を包囲する環状通路とを含
 み、前記環状通路は、前記管の前記中心軸に関して鋭角度に配置された内外側壁によって
 形成され、前記内外側壁が互いから離れるように閉鎖端から開放端まで延びている、高圧
 流体接続部。

【請求項 2】
 前記チャンバがキャップとステムとによって形成され、前記キャップは、前記中央通路
と一致して中央穴を有し、前記管は前記中央通路を通過し、前記キャップは、前記ステム
に固定され、前記ガスケットの前記環状通路の前記閉鎖端を覆う、請求項 1 に記載の高圧
 流体接続部。

【請求項 3】
 前記ガスケットは約 4.5 から約 9.5 までの範囲にあるジュロメータを有する、請求項 1
 に記載の高圧流体接続部。

【請求項 4】
 前記高圧流体接続部が漏洩せずに少なくとも約 3.5 MPa (約 5000 psi) の流体
 圧力に耐えることができる、請求項 1 に記載の高圧流体接続部。

【請求項 5】
 前記高圧流体接続部が漏洩せずに少なくとも約 7.0 MPa (約 10000 psi) の流
 体圧力に耐えることができる、請求項 1 に記載の高圧流体接続部。

【請求項 6】
 前記高圧流体接続部が漏洩せずに少なくとも 14.0 MPa (約 20000 psi) の流
 体圧力に耐えることができる、請求項 1 に記載の高圧流体接続部。

【請求項 7】

前記流体は液体である、請求項 1 に記載の高圧流体接続部。

【請求項 8】

前記液体が無菌である、請求項 7 に記載の高圧流体接続部。

【請求項 9】

前記外科手術用器具またはシステムはハンドピースを備え、作動時に、前記管を介して前記ハンドピースに誘導される流体は、切断組織、創面切除傷、洗浄、殺菌、組織表面水洗、駆動動力を器具に供給すること、のうちの少なくとも 1 つのために用いられる流体ジェットを形成する、請求項 1 に記載の高圧流体接続部。

【請求項 10】

前記ガスケットに前記管を維持する鎖錠機構を更に備え、前記外科手術用器具またはシステムは前記ハンドピースおよびカップラを備え、前記ハンドピースおよび前記カップラの各々は前記鎖錠機構の一部を備える、請求項 1 に記載の高圧流体接続部。

【請求項 11】

前記鎖錠機構は片手で操作可能である、請求項 10 に記載の高圧流体接続部。

【請求項 12】

前記チャンバを収容するコネクタをさらに含み、前記外科手術用器具またはシステムは前記ハンドピースを備え、前記ハンドピースおよびコネクタは対応嵌合形体を有し、前記管が前記ハンドピースの本体内に置かれる、請求項 1 に記載の高圧流体接続部。

【請求項 13】

前記環状通路の前記内側壁が前記中央通路に対向し、前記流体源からの圧力が前記管の前記外面に向けて前記内側壁に力を加える、請求項 1 に記載の高圧流体接続部。

【請求項 14】

前記流体源からの圧力が前記チャンバの前記内面に向けて前記外側壁に力を加える、請求項 1 に記載の高圧流体接続部。

【請求項 15】

前記ガスケットの前記開放端が前記チャンバの内部に対向している、請求項 1 に記載の高圧流体接続部。

【請求項 16】

前記ガスケットの前記環状通路は、前記管の中心軸に関して鋭角で配置されかつ前記環状通路の前記閉鎖端から該環状通路の前記開放端まで半径方向外方に延びるように広がる壁によって形成された、請求項 1 に記載の高圧流体接続部。

【請求項 17】

前記ガスケットは、前記環状通路の前記閉鎖端から該環状通路の前記開放端まで半径方向外方に延びるように広がる外側壁を含む、請求項 1 に記載の高圧流体接続部。

【請求項 18】

前記流体接続部は、漏れなしに少なくとも約 3 . 5 MPa (約 5 0 0 p s i) の流体圧力に耐えることができる、請求項 1 に記載の高圧流体接続部。

【請求項 19】

前記流体接続部は、漏れなしに少なくとも約 7 MPa (約 1 0 0 0 p s i) の流体圧力に耐えることができる、請求項 1 に記載の高圧流体接続部。

【請求項 20】

前記内外側壁は、前記高圧流体に接触する、請求項 1 に記載の高圧流体接続部。

【請求項 21】

前記環状通路は、前記管と流体連通している、請求項 20 に記載の高圧流体接続部。